



学習編

- 1 学習活動について
- 2 板書について
- 3 学習の約束
- 4 家庭学習(自主勉)について
- 5 ビジョントレーニングについて
- 6 朝の読書タイムの取り組みについて

1 学習活動について

★知を獲得した子どもを育むために大切にしたい4つの学習活動

課題をつかむ

○子どもが意欲的に取り組むためには、学習課題を「自分の問題」として捉える必要があります。子どもの興味・関心・意欲につながる要素を含んでいることが重要です。

例えば…

- ・自分たちに関わる事、自分事として捉えられる課題 ・子どもの思考を揺さぶる課題設定
- ・知りたい、気になると思うような課題設定 ・日常生活に基づいた身近な課題設定

自力解決

○子どもが問題を解く時間ではありません。この時間は、本時の学習課題の解決方法や、基礎的・基本的な知識技能を活用する思考力・判断力を獲得するための時間です。

自力解決のために…

- ・考える時間を明確にする(タイマーなどで区切る)
- ・多様な考えの表現方法を認める雰囲気を作る
- ・一人ひとりが自信を持てるような、机間指導での助言や評価をする
- ・子どもの頑張りや思考の過程を評価する

学び合い

○考えをつなぎ、深めるためには授業の中で学び合いをする意味や目的をはっきりと持ち、場面に応じて使い分けることができる必要があります。

・尊重型 ・順位型 ・分類型 ・集約型

※詳細は算面の授業の基本参照

※声かけや一緒に参加するなど、どの子どもも参加できる工夫が大切です。

まとめ・ふり返し

○子どもが、自らの言葉で学習内容をまとめることは、学習内容の理解を深め、定着させる上で極めて有効です。

○また、学んだ筋道や考え方を振り返ることによって、子どものメタ認知能力が向上し、次の学習活動において、よりよく問題解決を行うことができるようになります。

・まとめ…学習課題と対応させて、まとめさせる。

⇒学習課題を疑問形にしておく子どもも答えやすいです。

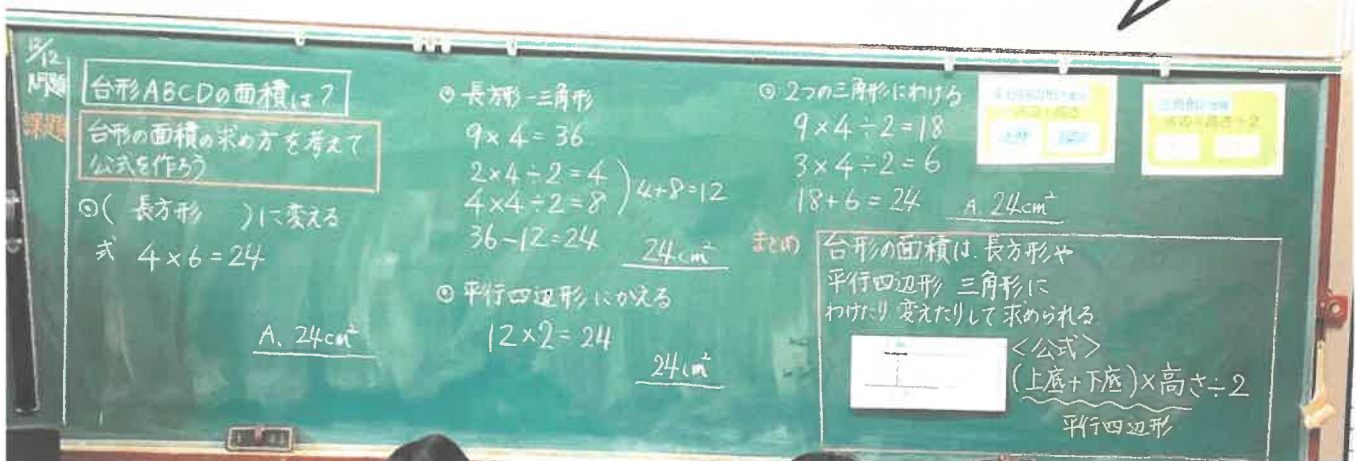
ふり返し…その時間の学習で、何を学んだか、どんな力がついたか、学習に対してどう思ったかをふり返らせることが大切です。

2板書について

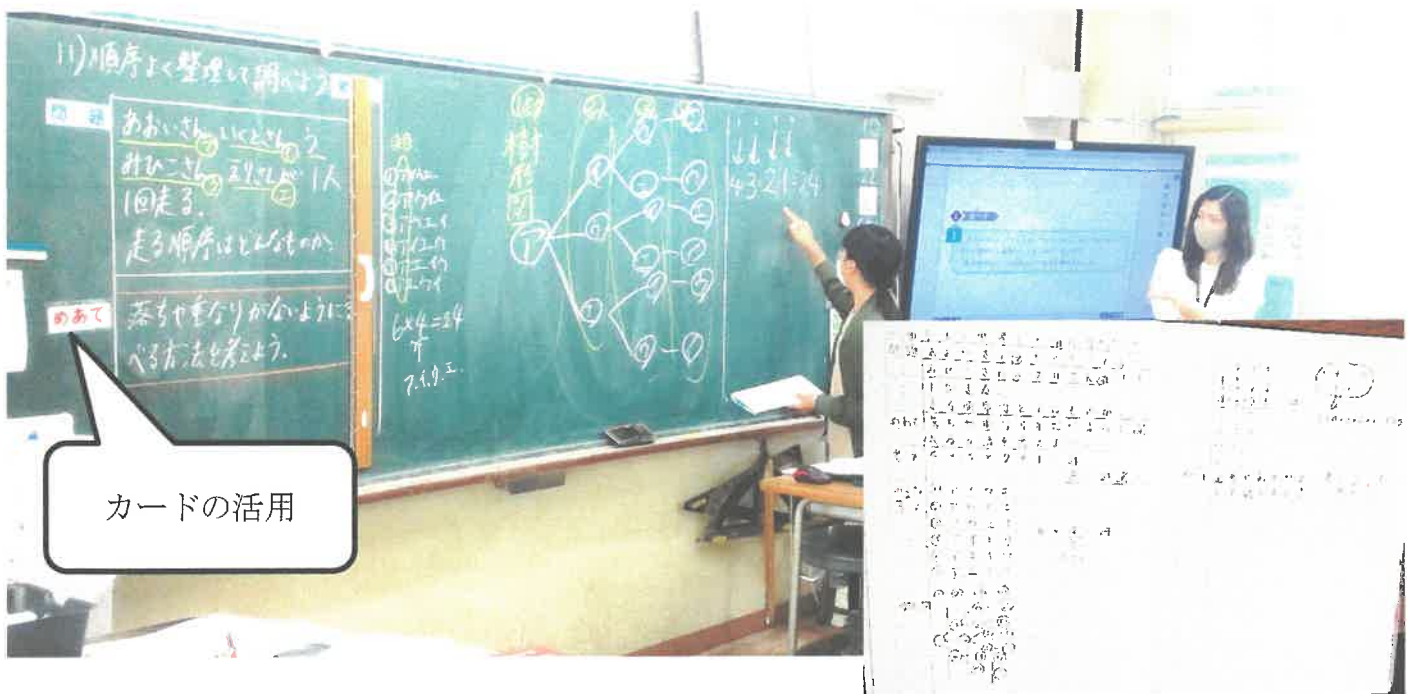
子どもにとって見やすい・わかりやすい板書を目指す。

資料の活用

① 資料の活用、授業の流れが見える構造的な板書



② 板書と子どものノートが対応するように心がける。



カードの活用

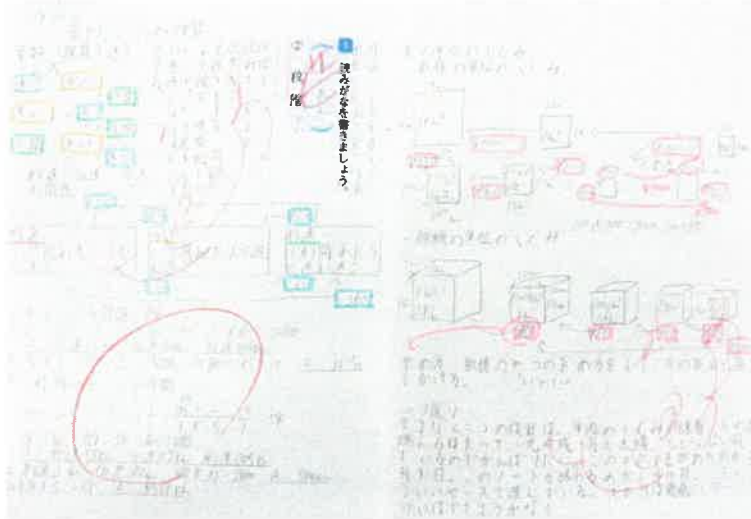
- ★「めあて」「課題」「まとめ」の文は回りを黄色(赤)で囲む
- ★ノートにもプリントにも黒板にも日付を書く。
- ★重要・大事な言葉などは赤で書いたり、黄線(赤線)を引く

授業カードを
活用!!



4家庭学習（自主勉について）

- ・1～2年生は、可能な児童に自主学習（音読、計算、漢字）に取り組めるように声掛けをする。
- ・3年生以上は自主学習の定着のために、休み前には自主学習を宿題にする。
- ・ノートの使い方、自主学習で取り組むと良いことなどを子どもに教える時間を取る。
- ・3年生以上は宿題+30分程度（ノート見開き分程度）の自主学習に取り組めることを目指す。



ノートは基本的に
みっちり使い切るように
指導しましょう

※例 自主学習で取り組むと良いこと

国	日記（わたしは、ぼう然としたスタート）		算	いろいろな作図をしよう。
国	間違い直し（漢字練習）		算	今までのノートをもとめて復習しよう。
国	間違いやすい漢字特訓		算	オリジナル計算の問題を作ってみよう。
国	漢字の成り立ち調べ		社	各県の特徴まとめ（地図帳）
国	新聞作り（ノート1ページにまとめてみよう）		社	5年生のふく習（教科書を1ページまとめる）
国	新聞レポート（新聞記事の紹介）		社	歴史についてまとめよう。（各時代）
国	読書感想文		社	歴史についてまとめよう。（人物）
国	とことん漢字（150文字）		社	日本について調べよう（教科書・地図帳からまとめる）



自主勉強の取り組み
を評価すると子どもの
意欲が高まります。

廊下に掲示



自主勉タワー



5ビジョントレーニングについて

○ビジョントレーニングとは

- ・眼を動かすだけの簡単な短時間のトレーニングで、読み書きや運動能力が向上する。
- ・眼を動かすことで、脳の前頭葉が活発に働く。
(前頭葉とは、考えたり身体を動かすための指令を出す脳全体の最高司令官。前頭葉と眼は密接な関係にあるため、眼を鍛えれば脳のカもアップするという。)

○ねらい

- ・クラス全体の集中力を高める。
- ・見る力、空間認知力が高くなり、字がきれいになったり、板書がスムーズになったり、本が早く読めるようになり、学習意欲が向上する。

○内容

- ・全校一斉に月・木曜日の8時半から3分間、「ビューティフルネーム」の曲に合わせて
- ・ビジョントレーニングを行う。(2回くりかえして3分間)

月曜日:ビジョンの後、読書タイム

木曜日:ビジョンの後、国語タイム

※学年の実態に合わせて、毎日することも可。

○やり方

- ・8時半から全校一斉放送で「ビューティフルネーム」の曲を流す。(放送委員会)
- ・慣れるまでは電子黒板もつけて、映像を見ながら行う。慣れてきたら、電子黒板はなしにする。
(自分の指を見ないで、電子黒板を見てしまう子がいるため。)

○見ることに課題がある子どもへの合理的配慮

(例)・板書しやすい座席の工夫

- ・板書の量の調節

(課題とまとめだけ書く、課題とまとめを音読し、練習問題のみにするなど)

- ・漢字の宿題では書く量を減らしたり、ノートのマス目を大きくする。
- ・ヒントありの漢字小テストにする。などなど

6朝の読書タイムの取り組みについて

○実施日時

- ・毎週月曜日 ビジョントレーニング終了後から
8:45 まで



○実施にあたっての留意点

- ・読む本の種類を絵本や読み物中心とする。
漫画・雑誌・ゲームの攻略本・写真や図の多い図鑑類以外のもの。
- ・担任も一緒に読書をする。

“朝読”から読書習慣の定着へ

- ・朝読は「担任も一緒」が大事なポイントです。まず大人が読む姿を見せることが、子どもたちを読書に向かわせます。
- ・朝読時、低学年は一人読みではなく、担任等の読み聞かせでもよいでしょう。
- ・読書が苦手な児童には、朝読の15分と図書時間で、無理せず1週間に1冊読みきれるぐらいの内容やページ数の本を、担任や司書からすすめてもよいでしょう。
- ・読書の記録をつけることで、「読んだ」という自覚が生まれ、読書に対する自信や達成感を育みます。
<読書記録活用例>
- ・定期的に担任が見てハンコを押す、カードが埋まれば特別貸出券がもらえる等。
- ・朝読の他に“隙間の時間”を活用し、読書の習慣化を目指します。
<隙間の時間例>
- ・給食準備・片づけ中、連絡帳記入中、自習時等の課題終了後、テスト終了後等。
- ・図書館を使った授業(図書の時間)で行う読書については、教師からの指導(声かけ)が読書へ向かう有効なきっかけとなります。
<指導(声かけ)例>
- ・全員着席で読書をする時間を決める、複数冊借りる場合は物語(9類)の本を1冊は選ばせる、担任のおすすめの本を紹介する等。
- ・子どもにすすめる本の選書や、本のあるクラス作り等では学校司書を活用しましょう。

“読める”ことは、学力のみならず、日々の生活の中で大きな力になります。

読書へのきっかけ作りとして、まずは朝読を活用しましょう。